

編集後記

- ◆山の緑が鮮やかな季節になりました。春から夏にかけては、登山を楽しむ人が多くなり、遭難事故が増える時期でもあります。この季節は1年でも最高にうきうきした気分となります。しかし、国会での与党の振る舞いを見るにつけ、「驕る平家は久しからず」と独り言を念仏のようにつぶやく自分に気がつく昨今でもあります。

世界に目を転じると、情勢は不透明で、かつ大変なスピードで変化しています。しかも、その変化の方向は世界平和とは逆の方向へ向かっているようにも思えます。今号では、世界の動向を踏まえ、日本の進むべき正しい方向を見つめ直す企画として、世界の火薬庫といわれる中東地域の政治・経済・宗教等の理解を深める講演録を掲載しました。

山での事故の発生状況を態様別にみると、悪天候等による道迷いが一番多いそうです。もし、道に迷ったら、焦ってむやみにあたりを歩きまわったりせずに、現在地を確認することが可能な所まで引き返し、正しいルートに戻ることを優先させることが原則とのことでした。

日本が中東とどう関わるべきか、講師による「軍事的に関わるというのは日本の場合には無理があり、地域の安定化やテロ等の危機の封じ込め、地域社会における収入源の創出というような、日本が得意とする分野でいかに貢献できるかが重要」との提言は示唆に富んでいました。

- ◆本年5月3日で、日本国憲法は施行70年を迎えました。国会では憲法論議が進められていますが、今回、憲法施行70年特集を組み、現行憲法の存在意義を改めて考えてみることにしました。

現行憲法は、70年もの長期間にわたって、一字一句も変わっていません。しかも、戦後ほぼ一貫して政権の座にあった自民党が1955年以来ずっと憲法改正を掲げてきたにも関わらず、改正されていません。

改憲できなかったのは、戦前・戦中に自由にもものも言えず、つらい戦争体験をした父母・祖父母の世代が改憲の必要性を認めなかったことが大きな理由だと思えます。私たちは、現行憲法ができた背景、憲法に託した先達たちの思いを理解しつつ、改憲が本当に必要なかどうかを判断することが問われています。

雰囲気には踊らされることなく、歴史を振り返り、沉着冷静に物事を決断したいものです。

事務局長 佐藤 晴邦

自治研ちば VOL.23

2017年6月14日発行

発行 一般社団法人

千葉県地方自治研究センター

〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10

千葉県教育会館新館6階

自治労千葉県本部内

TEL 043-225-0020

FAX 043-225-0021

編集 佐藤 晴邦

印刷 (株)メロウリンク企画

頒価 800円(送料別途)